

崖の急な坂道を馬が通る。

サンゴ礁がもり上がってできた喜界島は、プリンのような形をしています。プリンの上の部分は平らで、その周りは崖（左下の写真）になりました。

この崖に下から上まで続く急な坂道（右下の写真の赤丸の中に見えるくねくねした道）が、阿伝集落にあります。（※現在崖くずれのため通れません。）



かつてこの坂道を阿伝集落の人々や馬が、崖の上にある畑へ行くときに利用していました。そうです、この急な坂道を馬が通っていたのです。そのことを唄った「阿伝たかびら節」という島唄があります。「たかびら」とは坂道のことです。

機械がなかった頃、馬は畑を耕したり荷物を運んだりと当時の人々に欠かせない存在でした。古くからいた喜界島の馬は小さかったですが、サンゴ礁の土で育つ栄養たっぷりの草を食べているので骨やひづめが丈夫でした。

畑の仕事に機械が使われるようになると、馬は姿を消しました。しかし、近くの島で喜界島の馬を祖先にもつ馬が見つかりました。その一頭を今、喜界島でみることができます。（下の写真）

